

# 市民ネットワークちば



湯浅美和子



山田京子

市民ネットワーク 市議会議員

発行責任者 佐々木典子

編集・発行 市民ネットワークちば 〒260-0013 千葉市中央区中央 4-10-11 TEL043-201-2551 FAX043-223-7701

## 千葉市の防災対策は進化したか

### — 震災からまもなく2年 —

東日本大震災からまもなく2年となります。これまでに想定していなかった大災害を目的の当たりにして、千葉市の防災対策はどのように見直されたのでしょうか。この間、市民ネットワークちばでは千葉市の震災対策を継続してチェックしてきました。それが今どのように進んでいるか調べてみました。その中でも特に液状化対策については、国の制度運用が不確定なため、実現までには長い時間がかかるかと実感しました。

#### 市立病院の防災対策は？

千葉市には、ヘリポートを備えるなどの基準を満たし、県から災害拠点病院の指定を受けている海浜病院と、後方支援病院に指定されている青葉病院の2つの市立病院があります。先の震災時、青葉病院は免震構造ということもあり、被害はありませんでした。海浜病院は液状化により入口正面と駐車場が一部損傷、建物の壁の一部亀裂ができましたが、業務への支障はなかったとのこと。

これらの病院では震災に備えてどのような対策がとられているのでしょうか。まず物資の備蓄としては、入院患者のための非常食を3日分、医薬品は、海浜病院で14日分程度、青葉病院で7日分程度を備蓄しています。水は受水槽での備蓄のほか、雑用水として使える井戸もあるとのこと。非常用電源を動かすための灯油は、両院とも1週間分を備蓄しています。

次に、多数の患者に対応するため、トリアージ（どの負傷者から治療するか）の患者を救急搬送するかといった優先順位を決めること、訓練を毎年行い、災害時には、経営管理部の事務職員も両病院へ支援に向かうことになっています。海浜病院ではこれに加え3月に、地震災害に特化した訓練も行う予定だそうです。今後は、さらに市民参加の共同訓練を行えば、より効果的ではないかと思えます。先の震災の際には、両病院から医師・看護師・薬剤師らが陸前高田の診療所に派遣されたそうです。被災地での経験をこれからの防災対策に生かしてほしいと思います。

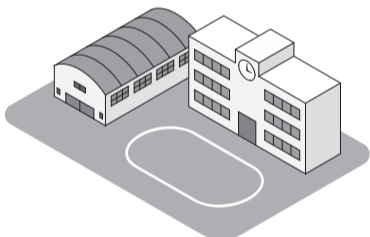
#### まだ緒にいたばかり

#### 避難所運営委員会

災害発生時に開設される避難所を、地域住民が中心となって地域の実情に合わせて運営していくため、平時から顔を合わせて話し合う場となるのが避難所運営委員会です。市では自治会等を通じて避難所ごとに設立するよう働きかけてきました。2013年1月21日現在までに委員会が行われたのは20カ所、運営委員会の前段階の準備会議が行われたのは21カ所でした。市内の全避難所の数は284カ所ですから、まだまだ緒にいたばかりの感があります。今後も避難所運営委員会について市民の理解が進み、全ての避難所運営委員会が速やかに設立されることを望みます。

#### 学校の耐震化工事は？

千葉市立の小中学校・特別支援学校の校舎・体育館を、震度7程度の揺れでも倒壊しない強度に補強する工事は、当初の予定を1年前倒しして、平成26年度中に完了する予定で進められています。今年度末時点での耐震化率は82%となる予定です。子どもたちが生活する場でもあり、また避難所となる場合も多い学校施設なので、一日も早く完了してほしいと思います。



#### 津波対策の見直しは？

東北地方沿岸部の街が津波に飲み込まれていく映像を目にした時、千葉県内でも被害を受けた地域があったり、津波は他人事ではないと感じました。千葉市での対策はどうなっているのでしょうか。千葉市では、沿岸地域などで市民が利用できる津波避難ビルを52カ所指定し、

ホームページでその所在地を示す地図を公表しています。また、今年度中に中央区・美浜区の沿岸地域と、稲毛区・花見川区の一部に、海抜表示を設置するための準備を進めています。さらに、津波の危険度を地図上に表す津波ハザードマップも今年4月に公表する予定で準備中です。千葉市の防災の設計図ともいえる地域防災計画では、これまで最も影響が大きいと思われる東京湾北部地震での、津波予測を50cm未満としており、被害もほとんど想定されていませんでした。震災を踏まえ、この地域防災計画に津波対策を盛り込むよう見直しを進めており、2月には、パブリックコメントを募集する予定だそうです。

#### スピード感が大切！

#### 液状化対策



美浜区を中心とした地域では、震災時の地盤の液状化現象により、大きな被害が発生しました。千葉市では、今後の再液状化を防ぐため、国の策定した制度、「都市防災推進事業（市街地液状化対策事業）」を活用して、道路・公園等の公共施設と、隣接地との一体的な対策を進めています。

2012年1月に、学識経験者等で組織する「液状化対策推進委員会」を設置し、液状化の発生原因、地質の状況や工法等に関する調査・検討が続いています。2012年末までに地質などの調査を実施し、モデル地区に選定された磯辺63自治会の区域では、他の地区に先駆けて地質に合った工法の検討が行われました。今後は、国の財政支援が確定するのを待つことから、市の支援策や、これまでの検討内容について住民に説明する予定です。また、2013年度は、対象となる地域住民の意向を確認しながら進めていくこととなります。

液状化対策は、住民がまとまり、土地権利者の同意のもと、国・市・住民が分担の負担をして進めていくものです。制度・事業の内容を十分理解した上で、安心して住み続けられる街を、住民の手でつくるのができればいいと思います。被害に遭った地域の住民は2年も困難な生活を強いられており、一日も早い実施が望まれます。

#### 代表挨拶

昨年末に行われた衆議院議員選挙の結果には、虚無感を感じられた方が多数おられたと思います。

市民ネットワークちばでは、今回の衆議院議員選挙のとき、中央区・稲毛区・美浜区の運営委員会、それぞれ賛否両輪ありながらも協議した結果、批判は覚悟の上で、脱原発・護憲の立場を表明していた民主党の田嶋要さんを推薦しました。

7月の参議院議員選挙では、選挙区が広く、政策が一致するよう候補者の当選の可能性がますます低くなるのが考えられます。それでも何かできることはないかと前向きに進むしかありません。

福島第一原子力発電所の事故からもうすぐ2年がとうとうとしています。未だ事故は収束していません。しかしながら、安倍政権では早くも脱原発の見直し再稼働、新規建設の動きが出ています。私たちは、早急な再生可能エネルギーへのシフトを目指すために、地方からでも少しずつ変えていく方法を探っていきます。

今年、3月に千葉県知事選挙、5月に千葉市長選挙・稲毛区市議補欠選挙、7月に参議院議員選挙が予定されています。今年も市民ネットワークちばの活動に対して、皆さまのさらなるご支援ご協力をお願いいたします。

市民ネットワークちば 代表 佐々木典子

